

ふるさとの昔話

狸久保の 犬の字の呪文

鷹岡の久沢に狸久保というところがあります。昔、このあたりはタヌキが多く、通る人をばかしたと言われます。今回は、狸久保に伝わる「犬の字の呪文」の話です。



△教育会館の北側を狸久保と言いました



道端にうづくまる娘

昔、鷹岡の北部を通って甲州へ塩や魚を運ぶ道がありました。

ある日、田子の浦の魚屋が甲州へ行った帰り道、天間沢を渡って坂道にかかりました。秋の日は暮れるに早く、あたりは既に暗くなり始めていました。

ふと前を見ると、きれいな娘が道端の石に腰をかけて泣いていました。魚屋は一体どうしたのかと尋ねました。娘は「私は甲州へ奉公に行っています。母が病気だったので、目の前に人だまがあらわれました。きつと母が死んだに違いありません」と言いました。

魚屋は「それはかわいそうだ。私も同じ方向だから一緒に行く」と励まし、先を歩き始めました。

タヌキのいたずら

しばらく行くと、すっかり暗くなりました。すると、生温かい風

が魚屋のほおをなでました。魚屋が振り返ると、どこへ消えたのか娘の姿が見えませんが、「はて？」と思いつつ前を見ると、目の前に一本の太木が道いっぱいにはえています。

魚屋は「これはタヌキのいたずらに違いない」と思い、素早く足の元の小石を拾って石に「犬」という字を書くや、カいっばいその木に投げつけました。すると、太木は二つに裂けて倒れたので、魚屋は一目散に逃げ帰りました。

ムジナ塚という地名も

久沢北の小林邦隆さん(七十三歳)は「昔の狸久保のあたりは人家がなく、本当にタヌキがいただらうね。子供のころは近寄れなかったよ。タヌキのことをムジナと言



小林邦隆さん

言、ムジナ塚という地名もあるよ」と語ってくれました。

地名の由来

本市場



本市場村は米ノ宮浅間神社付近に早くから開発された村で、古くから「市」が立ったところなので本市場と呼んだものです。本市場は江戸時代に吉原宿と蒲原宿との中間の茶屋、間の宿として繁栄しました。ことに富士川の渡船場を控えてにぎわい、幕末には宿泊設備もありました。この村は明治二十二年、他の十五カ村と合併して加島村をつくりました。

こちら編集室

情報提供でも叱咤激励でも市民の皆さんからのお便りほどうれしいものはありません。お便りは、とにかく読んでいただいたことの証明ですから、ありがたいとお受けしていただきます。ところで、このコーナーの上の「ニイハオ嘉興市」なぜか一度も御意見をいただいたことがありません。担当者「原稿が完ぺきだからさ」と言っておりますが……。

ニイハオ 你好



△南湖は水上交通の要路でもあります

嘉興市の水陸交通

鉄道・道路とともに嘉興市の重要な交通手段に水運があります。

揚子江と钱塘江の間の平野部にある嘉興市には、湖や運河が多くあります。

私たちは湖といえば透き通った水をたたえる落ち着いた風景を思い浮かべますが、嘉興市では必ずしもそうではありません。

例えば、嘉興市民の憩いの場である南湖は、景勝地であるのと同時に水上交通の要路で、活気があります。

水墨画のような南湖をバックに、建材などを積んだ小船がタンタンとエンジンの音をたてて走る様子は、日本では見られない光景です。

また、川の流れはとても緩やかで、水の色は褐色です。草魚のような川魚もたくさんとれ、漁業の船も見られます。